

Economic Indicators

発表日: 2021年4月30日(金)

景気動向指数(2021年3月)の予測

～基調判断は「改善」へ上方修正～

第一生命経済研究所 調査研究本部
 経済調査部長・主席エコノミスト 新家 義貴
 (TEL: 03-5221-4528)

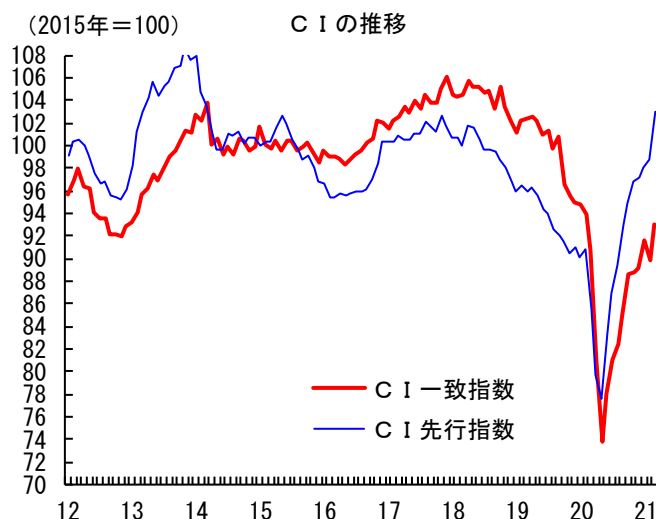
輸出・生産関連による押し上げでC I一致指数は大幅に上昇

内閣府から5月12日に公表される2021年3月の景気動向指数では、C I一致指数を前月差+3.0ポイントと予想する。内訳では、輸出数量指数や鉱工業生産指数、生産財出荷指数、耐久消費財出荷指数など、輸出・生産関連が牽引役となった。加えて、昨年落ち込んでいた裏が出た影響もあり、小売業販売額(前年比)、卸売業販売額(前年比)の押し上げ寄与も大きくなる見込みである。3月のC I一致指数の水準は1月をはっきり上回るとみられ、昨年5月を底とした景気拡張局面が足元まで継続していることが示されるだろう。

21年1月から緊急事態宣言の発令・延長はあったものの、落ち込みは対面型サービスに集中しており、製造業部門は好調な推移が続いている。C I一致指数の採用系列に製造業関連の指標が多いことから、GDP等で示されている景気の落ち込みが、C Iには反映されにくいという面もあることには注意が必要である。

基調判断は「改善」へ上方修正

内閣府によるC I一致指数の基調判断は、2月までの「上方への局面変化」から、「改善」への上方修正が予想される。3月分が上昇することで、「原則として3か月以上連続して、3か月後方移動平均が上昇」かつ「当月の前月差の符号がプラス」との条件を満たすためである。先行きについても、半導体不足等の懸念材料はあるも、米国を中心とする海外経済の持ち直しを背景として輸出・生産は底堅い推移が続くとみられる。前述のとおり、4月からの緊急事態宣言の悪影響も、C I一致指数には反映されにくいこともあり、C Iは上昇傾向が続く可能性が高い。当面、「改善」判断が維持されるとみられる。



(出所)内閣府「景気動向指数」

(注)直近の2021年3月は第一生命経済研究所による予測値

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。